

国立公園  
ガイドブック

パークガイド

# 八幡平

岩手山・秋田駒ヶ岳



## 十和田八幡平国立公園





# パークガイド 八幡平

はちまんたい  
岩手山・秋田駒ヶ岳  
いわてさん あきたこまがたけ

## 目次

八幡平の四季.....2  
 ◆あこがれの山 八幡平 倍賞 千恵子.....2

十和田八幡平国立公園・八幡平地域のプロフィール.....10  
 ◆八幡平へのアクセス.....11

八幡平地域索引図.....12

**八幡平**に登る.....14  
 ◆八幡平パークサービスセンター.....14  
 ◆八幡平の名前の由来.....15

八幡平自然探勝路を歩く.....16

茶臼岳～八幡平山頂コース.....18  
 ◆松尾八幡平ビジターセンター.....19

八幡平山頂～大沼コース.....20

八幡平ビジターセンターを訪ねる.....22  
 ◆泥火山.....23

大沼自然研究路を歩く.....24  
 ◆後生掛(大沼)キャンプ場.....24

後生掛自然研究路を歩く.....26

焼山縦走(後生掛～玉川)コース.....28  
 ◆玉川温泉ビジターセンター.....29

大場谷地.....30  
 ◆曾利滝.....30

動物図鑑.....31

**岩手山**に登る.....32

東岩手山 柳沢コース.....34  
 ◆岩手山は火山の集合体.....34

西岩手山 網張コース.....35  
 ◆西岩手山と東岩手山とカルデラ.....35

網張ビジターセンターを訪ねる.....36  
 ◆休暇村岩手網張温泉.....37

網張の森自然散策路を歩く.....38  
 ◆網張展望リフト.....39

**秋田駒ヶ岳**に登る.....40  
 ◆秋田駒ヶ岳マイカー乗り入れ規制.....40  
 ◆アルパこまくさ.....41

秋田駒ヶ岳 新道コース.....42  
 ◆女岳の火山活動.....42

秋田駒ヶ岳 国見コース.....43  
 ◆スコリア堆積原「大焼砂」.....43

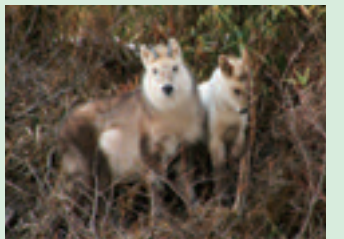
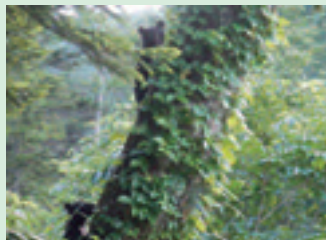
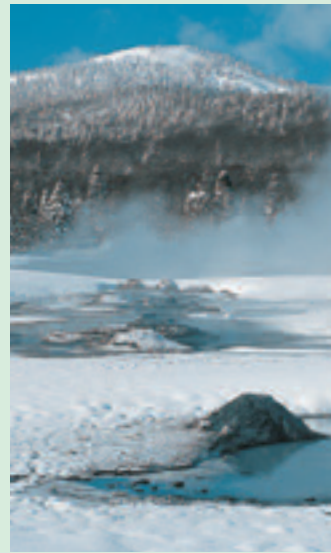
秋田駒ヶ岳 乳頭山コース.....44  
 孫六コース／一本松コース／蟹場コース  
 ◆千沼ヶ原.....44  
 ◆休暇村乳頭温泉郷.....45  
 ◆空吹湿原.....45

八幡平の景観.....46

花図鑑.....48

八幡平の歴史.....53  
 かつては人跡未踏の地／温泉利用と鉱山開発／開発に尽力した先人たち／  
 国立公園指定への取り組み／国立公園指定から現在まで

主要機関・交通機関・観光案内問い合わせ一覧.....56





# 八幡平

## 山頂部に広がる平坦地形

八幡平は岩手、秋田の県境にある。名前のとおり、山頂部に特異な平坦地形が広がるのが特徴だ。切り立った稜線をもつ山岳のイメージと異なり、大きな森の塊のような懐のやわらかさが八幡平の身上であり、大きな魅力だ。



畚岳から八幡平を望む

林は、群生密度が日本一と呼ばれる美林だ。ブナ林のような華やかさはないが、深い緑が湿原や湖沼を引き立てるように取り巻き、庭園のように整った景観を形成している。晴天の日もよいが、深い霧にオオシラビンが包まれる様子も八幡平らしい景色だ。冬は山頂部一帯が広大な樹氷原に姿を変える。限られた登山者だけが見ることができ、日本を代表する絶景だ。

## 湿原と花々

八幡平は湿原が多いのも特徴だ。ゆるやかな地形、寒冷な気候、豊富な積雪が多く、湿原を形成す



大場谷地のミスバショウとエゾノリュウキンカ



八幡沼周辺の湿原と池塘

ゆるやかな地形から、かつては粘度が低く薄い溶岩によって形成されたアスピーテ火山(楯状火山)に分類されていたが、最近の研究で誤りであったことがわかっていく。八幡平は粘度の高く厚い溶岩によって形成されており、頂上部が平坦になった台地状火山だ。

山頂部は千六百十三メートルの最高地点。八幡平を基点とし、畚岳、源太森、茶臼岳などがゆるやかな傾斜でつながれている。深田久弥は『日本百名山』で、「八幡平の真価は高原逍遙にある」と述べているが、この一節は八幡平山頂部一帯のおだやかな地形を称えた言葉だ。一般的に八幡平という、この



エゾオヤマリンドウ



ニッコウキスゲ



ワタスゲ

る要因となっている。山頂部から山麓まで八幡沼湿原、黒谷地湿原、大谷地湿原、大沼湿原、大場谷地などが点在し、湿原内にはさまざまな高山植物や湿原植物の群落が発達している。

どの湿原も散策路が整備されており、車道からのアクセスもよいので短時間で散策を楽しめる。また、散策路は登山道とも連結しており、長距離トレッキングの景勝ポイントとして、さまざまな湿原を散策ルートに組み込める。大場谷地のミスバショウ、大沼のコバイケイソウ、大谷地のタチギボウシなど、代表的な群生景観をはじめとし、可憐な花々が五月から九月にかけて湿原を彩る。

## 山の湯宿と多様な登山ルート

八幡平は、山岳道路アスピーテラインや樹海ラインが山頂直下を通過するため、さまざまなパリエーションで散策ルートを選ぶことが



八幡平草の湯分れ周辺の登山道

ができる。例えば、山頂目指して登るのではなく、山頂を起点に下っていくという歩き方も可能だ。藤七、松川、蒸湯、後生掛、玉川など点在する山の湯宿を拠点としながら、温泉と散策をゆっくりに楽しんではどうだろう。

## 八幡平パークサービスセンター



候の確認、高山植物の開花状況、落し物、迷子などさまざまな問い合わせにも気軽に応じてくれる。売店では登山用品や登山マップ、自然関連の図書、動植物のオリジナルグッズなどを販売している。センター2階は、高山植物の写真展示室兼休憩室となっている。八幡平の四季折々の写真をゆっくり堪能できる。

このセンターは山の案内所であり、登山や観光で訪れる人々のよりどころだ。八幡平に着いたら真っ先に訪ねてみよう。

## 密なる原始の森

### 山は円に谷深く 森高くして密なる原始の姿

これは、大正九年に八幡平周辺を踏査した沼井鉄太郎氏の紀行文「羽後国玉川溪谷の奥山」の一節だ。八幡平の特質は、広大で自然度の高い森林にあるが、観光地と



ブナ林の紅葉

して発展する以前の森は、より深く美しいものだったのだろう。山腹に広がるブナ林は新緑から紅葉、落葉し雪が降り積もる冬も、四季を通して美しく、多くの野生生物が生息する森だ。中でも八幡平南部地域一帯はブナを主体とした原生林地域として知られ、現在は林野庁により「葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域」に指定されている。自然環境の維持、動植物の保護を図るため、不伐の森として大切に守られている。八幡平山頂周辺のオオシラビン

## 八幡平の名前の由来

八幡平の名前の由来は諸説あるが、アイヌ語「パツ・オマン・ル・タイ(尾根筋の・上にある・神秘的・森)」に由来するという説は、沼井鉄太郎氏の紀行文に漂う八幡平の印象にもよく類似する。

もう一つの説は、坂上田村麻呂の蝦夷平定にまつわる伝説によるもの。蝦夷の残党を追う途中、広い高原(八幡平)にたどり着いた田村麻呂は、その極楽浄土のような景色に感動し、戦の神である八幡神宮を祀って戦勝を祈願した。残党を討伐後には、再び高原の八幡神宮を訪れ、勝利の報告をするとともにこの地を「八幡平」と名づけたという。歴史的事実ではなく、あくまでも伝説だが、遠い昔の歴史に思いをはせて眺める景色は、いつもとは違った表情で見えるかもしれない。

代表的なルートは、秋田県側では八幡平山頂へ長沼へ大谷地へ大沼と下るルートや、八幡平山頂へ大深温泉へ後生掛温泉と下るルートがある。さらに、足を延ばして後生掛温泉へ焼山へ玉川温泉のルートを組み合わせるのもよい。このルートは、オオシラビンからブナに変化していく森林を感じながら、豪快な火山現象も堪能できる。岩手県側では、茶臼岳へ黒谷地へ八幡平山頂の縦走ルート。安比を起点に八幡平山頂へ至るルートがある。見返峠駐車場から南に足を延ばすと、畚岳や蓬菜境など、一〜二時間程度で楽しめる散策路や、大深岳を経て岩手山へと連なる裏岩手縦走路が続く。これらルートは、稜線から望む八幡平の山々の展望、山肌広がるオオシラビンの樹林景観が魅力だ。

アスピーテラインから望む山並みと霧



●八幡平パークサービスセンターの開館時間：午前8時30分～午後4時30分  
入館無料(展示休憩室の一部は、閉館後も避難室として開放) 冬期休館  
〒028-7303 岩手県八幡平市松尾見返峠八幡平登山口 電話：090-2270-8205